

あぶくまもち (もち米)

= 福島県農業総合センター =

プロフィール

1 育成経過

○育成機関: 農業総合センター(福島県郡山市)

平成5年 母「ふ系172号」×父「奥羽糯347号」を交配

平成8年 単独系統とする。特性検定試験開始(～20年)

平成9年 生産力検定予備試験及び本試験(～20年)

平成12年 水稻奨励品種決定基本調査予備調査及び本調査(～15年)

平成20年 水稻有望系統現地適応性試験

平成20年 奨励品種(特定品種)決定

2 特徴

○現在、中山間地域で多く作られている「ヒメノモチ」に比べ冷害に強く、穂発芽しにくいこのことから、阿武隈山間等の中山間地で安定した品質、収量が期待できる。

○出穂期は「ヒメノモチ」よりも2日早い(8月5日頃)中生の早に属する。

○いもち病のほ場抵抗性は、葉いもち、穂いもちとも「ヒメノモチ」と同等であり強い。

○粳の先端は、褐色に着色する。

○収量は、「ヒメノモチ」並～優り、品質は「ヒメノモチ」並である。

○切り餅、丸め餅にする時の作業性に優れ、「ヒメノモチ」よりも加工適性が高い。



粳の形

精米



穂発芽試験

左から「こがねもち」「ヒメノモチ」「あぶくまもち」



ほ場の様子
(郡山、2001年9月)